

# 生物はなぜ老い、そして死ぬのか

小林 武彦 先生

(東京大学 定量生命科学研究所・教授)

9月2日(火)14:00-15:20

全学講義棟1号館1-207番教室



なぜヒトだけが老いるのか  
小林 武彦



こばやし・たけひこ  
1963年生まれ。九州大学大学院修了(理学博士)。基礎生物学研究所、米国立シユ分子生物学研究所、米国立衛生研究所、国立遺伝学研究所等を経て、東京大学定量生命科学研究所教授。日本学術会議会員、生物科学学会連合代表、前日本遺伝学会会長。生命の連続性を支えるゲノムの再生、細胞の若返り機構を解明すべく日夜研究に励む。伊豆の海と箱根の山をこよなく愛する生き物・自然大好きオヤジ。著書に「寿命はなぜ決まっているのか」「長生き遺伝子の「ヒミツ」」(岩波ジュニア新書)、「生物はなぜ死ぬのか」(講談社現代新書)などがある。

人間以外の生物は老いずに死ぬ。  
ヒトだけが獲得した  
「長い老後」には  
重要な意味があった—



生物学で「わからないこと」があると、その進化について考えることがあります。生物はなぜ老いそして死のか?という疑問についても同様です。全ての生物は必ず死ぬので、「死」の起源を遡ると生物が誕生する前の段階まで行き着いてしまいます。一方「死」の前に訪れる「老い」については、生きものによってかなり違うので、最近に現れた、しかもヒト特有のもののようなようです。本セミナーでは「老い」と「死」の意味について生物学的な視点から考えてみます。

※本セミナーは、「生命科学III」および「分子生物学特論3」の授業の一環ですので、受講生は出席してください。

問い合わせ先: 西山(内線796152)